

2021 年 一橋大 予想模試③ 概評

出題分析		
試験時間 120 分	配点 学部により異なる	大問数 3 題
分量 (昨年比較)〔減少 同程度 増加〕		難易度変化(昨年比較)〔易化 同程度 難化 〕
<p>【概評】</p> <p>今回の予想模試は難易度を若干高めてより本番に近いレベルにしてみた。大問 1 では古代から近現代にかけての時代横断的な問題構成、なおかつ1つのテーマを軸とした問題構成を試みた。一橋日本史の短答問題は比較的容易な傾向もあるが、今回の大問1の問4に出題したような、受験生の盲点になりやすい用語も出題される場合もあるので、油断せずに対策しておきたい。また、大問2に関しては共通テストに近似させた新傾向の問題も載せてみた。去年の本試の大問 1 からわかるように、一橋日本史の伝統が変容していく場合も考えておかなければならない。ここで出題したような会話は、実際に近年の一橋地理で出題されている。また同大問では高校では習わないガーシェンクロン・モデルを扱ったが、日本資本主義における鉄道業の発展のあり方をイメージできれば問題はないと思われる。このように一見範囲を逸脱したような出題の仕方をするのがしばしば見受けられるが、それはしっかり考えてみると高校範囲内の内容を遠回しに聞いているに過ぎない単純な問題の可能性もある。またこの大問で出題した「臥雲辰致」のように、漢字が難しい人物や用語はノートにまとめてみるなどして対策して周囲の受験生と差をつけよう。大問 3 は今回の予想模試の中では最も容易であった。周知であると思われるが、特に一橋日本史は「不戦条約」「国家総動員法」が大好きなので、ここを落としたり致命的になってしまうので注意しよう。</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	古代から近現代にかけての道路の歴史・関所の名称と役割の変遷	<p>古代から近現代にかけての横断的問題である。一橋受験だからと言って古代を捨てるのはもったいない。2019 年の日本史(大問 1 問 1 土地領有関係の変遷)を除いて一橋日本史の古代の範囲はあまり突っ込まれるような問題は少なく、律令体制の実態と崩壊や仏教と人々の結びつきなどの典型問題が多く、対策のための時間も労力も近世以降に比べれば軽微だ。問 1 は律令制下の公用の交通路の実態。簡単に言えば、中央と地方を結ぶ大規模な「駅路」と、地方同士を結ぶ自然発生的で小規模な「伝路」である。そして、衰退したのはより管理のための統制力や費用のかかる大規模な「駅路」であり、その衰退を促したのは言うまでもなく律令体制の崩壊である。やや難。問 2 は 2020 年の本試でも出題された。直近に出されたからと言って出ないと確信するのは禁物。ただ問題の後半については難しいだろう。標準。問 3 は問題ない。列島改造論の内容も書けるようにしておくこと。易。問 4 は穴埋めがやや難しい。センター対策としては覚えていたがまさか一橋の本番に出るとは思わずに忘れてしまわないように古代の用語もチェックしておこう。また関所の役割は古代において東国で兵力を結集するのを防ぐ固関を行うなど治安的役割→中世において関銭を徴収する経済的役割→近世においては「入鉄砲に出女」などの治安的役割という変遷をたどる。やや難。</p>	やや難

II	<p>鉄道の文化的役割・臥雲辰致・国立銀行の増加の背景・ガーシエンクロン・モデルの考察</p>	<p>日本資本主義に関連する問題構成である。特に一橋日本史では産業革命については踏み込まれたやや難易度の高い問題が出題される傾向があるので覚悟を持って勉強に励もう。問 1 は鉄道が果たした文化的な役割を問う。経済的な役割としてはもちろん製品の産地から港への輸送や軍需物資の輸送は常識であるが文化的な側面はわかりづらかったかもしれない。端的に言えば情報・思想の速達性が格段に向上したことで国民の思想の一体化が加速したことを書けばよい。鉄道の存在は当時の人々に多面的な影響を与えたのである。やや難。問 2 対策をしてないと漢字が思い浮かばなかったかもしれない。直感で書けないと思ったら何度も手書きで練習しよう。ちなみに狹生徂徠も難しいので注意。標準。問 3 は典型問題で 2018 年の本番でも出題された。端的に言えば兌換義務を無くしたことで国立銀行が増加、さらにその増加は産業革命のための資金を提供した一方でインフレを生じさせた。やや易。問 4 はすこし頭を使う。「上から」=政府主導の工業化が否とすれば、考えうるのは鉄道業が民間の力を必要としたことだ。当時の政府は西南戦争などの出費で財政に余裕があったわけでは無いので、多大な費用がかかる鉄道業は株式会社の形態で民間の株主に頼るほかなかった。また実業家の役割も無視できない。このように鉄道業は「上から」工業化とは言えないのである。やや難。</p>	<p>やや難</p>
III	<p>近衛声明・日中戦争の宣戦布告・不戦条約・広島市の機能</p>	<p>今回の大問 3 は政治史・戦争関連から出題した。一橋の近代以降の政治史では天皇大権や議会の役割機能、統帥権、軍政と軍令の違いなどが頻出である。問 1 は近衛声明の内容をストレートに聞く問題。過去問にも出題歴は無く、意外に盲点なので注意。標準。問 2 は日中戦争で日本が宣戦布告をしなかった理由で難しいかもしれない。キーワードはアメリカの中立法である。当時の日本は重工業製品や石油などをアメリカに依存するしかなく、アメリカが中立法を発動して輸入を止められることは避けたかった。やや難。問 3 は典型問題の不戦条約関連。違反した国に対する制裁も特になく、さらに自衛のための戦争という建前を作り出してしまい、満州事変に関しては効力を発動できなかった。やや易。問 4 は広島市。広島は原爆の被害を受けた都市という印象が強いが、日清戦争中では広島城に大本営が置かれ、さらにその後も軍工廠も置かれて軍都として栄えていた。広島市の「被害」の歴史だけでなく「加害」の歴史も理解することは平和を追求する日本人として必要である。やや難</p>	<p>標準</p>